



骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

だい たい こつ とう しょう 大腿骨頭すべり症



「運動器の健康」世界運動
動く喜び 動ける幸せ

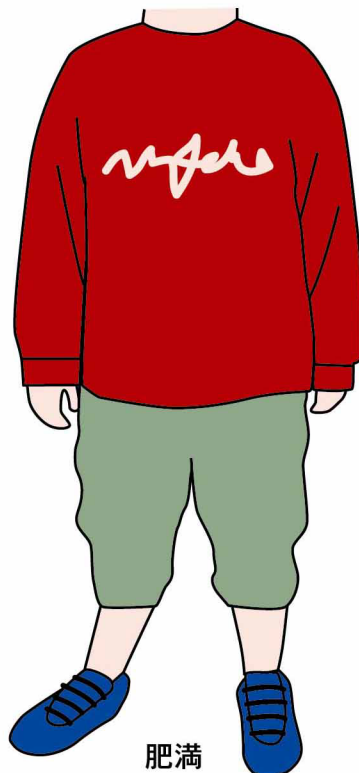
● 症状 ●

股関節痛、歩容異常(跛行)が主体ですが、膝関節痛を訴えることもあるので注意が必要です。股関節の可動性が減少していくこと、股関節を曲げていくと徐々に股関節が外側に向かうなどが特徴的です。すべりの程度が高度の場合は歩行不能になります。

● 原因と病態 ●

【原因】 肥満と成長期のスポーツ活動による力学的負荷が大腿骨に加わるために生じます。成長ホルモンと性ホルモンの異常で発症することもあります。

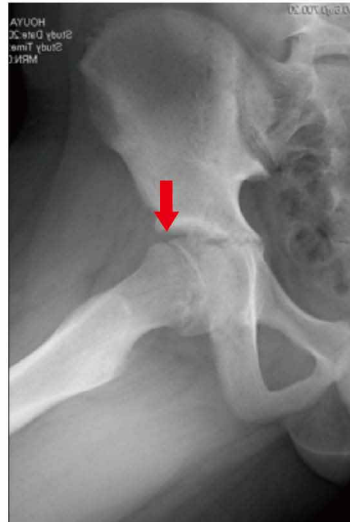
【病態】 9歳から15歳頃の股関節の成長軟骨板(成長線)が力学的に弱い時期に発症します。成長軟骨板で転位(すべる)します。男児に多い疾患です。



肥満

● 診断 ●

股関節単純X線(レントゲン)撮影で診断しますが、CT検査も診断に有用です



(患側 単純X線側面像)
(矢印 成長軟骨板)



(健側 単純X線側面像)

● 予防と治療 ●

「予防と治療」

診断確定後はただちに荷重を禁止します。

すべり角度が少ない場合は手術療法(金属固定など)を行い、成長軟骨板のすべりの進行を予防します。高度のすべりの場合は骨切り手術が必要になることもあります。



「合併症」

骨頭への血流障害による骨頭壊死が生じることがあります。治療後の成長障害にも注意が必要です。そのため成長軟骨板(すべり部位)が安定してくるまで運動制限が必要になります。